



(公財) 山階鳥類研究所

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115
電話：04-7182-1101 FAX：04-7182-1106<http://www.yamashina.or.jp>

海鳥のマミジロアジサシがイランから沖縄県名護市に 飛来したことが「鳥類標識調査」によって確認されました 日本とイランの間で野鳥の移動例が確認されたのは初めてです

- ・2014年10月13日沖縄県名護市で保護後死亡したマミジロアジサシに装着されていたイランの足環について、山階鳥類研究所で問い合わせた結果、イランのペルシャ湾沿岸の島で2013年7月28日にヒナを捕獲し足環を装着して放鳥したものであることが判明しました。
- ・放鳥地から回収地までの距離は直線距離にして7,450kmとなります。
- ・保護されたのは、太平洋上で「大型で非常に強い」勢力となった台風19号が沖縄島を通過した翌日で、付近の海上に飛来していたこの個体は、台風によって衰弱し陸地に吹き寄せられたと推測されます。
- ・この事例は、日本とイランの間で野鳥の移動が確認された初めての事例で、足環による鳥類標識調査の有効性を示す好例といえます。
- ・マミジロアジサシの生態の上からは、イランで繁殖する個体の越冬地は本来インドからアフリカ東沿岸域と推定され、今回の移動はその範囲から大きく外れていると考えられます。

この個体は、名護市安部の^{あぶ}カヌチャゴルフコースで一般の方によって救護されたもので、救護した方によってヤンバル動物診療所（名護市内）に持ち込まれた時にはすでに死亡していましたが、装着されていた足環にイランのものと思われる刻印があったため、NPO法人どうぶつたちの病院 沖縄を經由して山階鳥類研究所に連絡が入ったものです。

山階鳥類研究所でイランの環境省に問い合わせたところ、この個体は、イラン国環境省ブーシェフル州事務所のファルハド・ホセイニ・ターイエフェさんらの研究チームが、イランのペルシャ湾沿岸のナヒールー島で2013年7月28日にヒナを捕獲し足環を装着して放鳥したものであることが判明しました。

鳥類標識調査

カスミ網などを使って、鳥類を捕獲し、個体識別用の足環を装着して放鳥するもので、鳥類の渡りや寿命などの様々な生態を明らかにする目的で実施されており、近年では、鳥類生息状況のモニタリングのためにも活用されています。日本では現在、環境省の委託事業として、山階鳥類研究所が、多くのボランティアの協力も得て実施しています。1961年以来足環を装着して放鳥した500万羽以上のデータが蓄積されています。



沖縄県名護市で保護後死亡したマミジロアジサシ（上左）、足環（上右）と今回判明した移動（下）。足環には「ENVIRONMENT TEHRAN CW08016」という刻印がありました。（写真提供：金城道男（NPO法人どうぶつたちの病院 沖縄））



マミジロアジサシ

チドリ目カモメ科の海鳥。全長 35 ～ 38cm。翼開張(広げた翼のさしわたし) 76 ～ 81cm。インド洋、太平洋、大西洋の熱帯・亜熱帯に分布し、海岸や岩礁にコロニー(集団繁殖地)を作って繁殖します。日本では琉球諸島の小島や岩礁に 5 ～ 9月に渡来し、繁殖します。繁殖地以外では、北海道、本州などで迷行が記録されています。海上を飛翔して水面近くの小さな魚やイカなどを見つけて捕食します。



写真：マミジロアジサシ (写真提供：山階鳥類研究所；沖縄県伊是名島、2012年7月22日、撮影：尾崎清明) (今回移動が確認された個体ではありません)

※このプレスリリースに使用した写真のデジタルデータをご希望の方は下記までご連絡ください。

本件についての問い合わせ先
(公財) 山階鳥類研究所 広報主任 平岡
保全研究室 尾崎
Tel: 04-7182-1101 FAX: 04-7182-1106